

最後に、市民応援あかがねポイント事業について質問します。

この事業は、物価高騰が市民生活に深刻な影響を及ぼす中、国の交付金を活用し、地域通貨あかがねポイントの還元キャンペーンを実施するものです。地域経済の活性化を目的とした取組として一定の効果が期待される一方で、制度の設計が全ての市民にとって公平であるか改めて検証する必要があると考えます。

そこで4点お伺いします。

1点目、利用状況について。現在のユーザー数を教えてください。高齢者の利用状況は全体と比較してどうでしょうか。

2点目、物価高騰対策としてのキャンペーンの公平性について。今回、より幅広い市民に還元するために、どのような手だてを考えておられますか。また、今までにもキャンペーンは行われてきましたが、世代別、所得別の利用状況や効果について、データの収集や分析はされているのでしょうか。

3点目、高齢者への支援について。スマートフォンの操作が困難な方やデジタル機器に不慣れな高齢者にとって、アプリを介したポイント利用はハードルが高く、制度の恩恵を受けにくい状況があります。具体的な支援策をどのように検討されていますか。

4点目、低所得者層への公平性について。ポイント還元キャンペーンの利用には一定の消費が前提となりますが、そもそも消費余力のない世帯は生活費を切り詰めている状況で、恩恵を受けにくいと考えられます。6月議会で小野志保議員から提案のあったおこめ券やガソリン券など、ポイント還元以外の支援策との併用は検討されましたか。

御答弁よろしく願いいたします。

**○議長（田窪秀道）** 答弁を求めます。加地企画部長。

**○企画部長（加地和弘）**（登壇）市民応援あかがねポイント事業についてお答えいたします。

まず、あかがねポイントの利用状況についてでございます。

令和7年8月31日時点でのあかがねポイントのユーザー数は、3万3,281人でございます。そのうち、高齢者の利用状況につきましては、アプリへの登録時に生年月日を登録しているユーザー数から推計いたしますと、60代以上のユーザー数が全体の約24%を占めており、メイン利用世代である40代とほぼ同数の方に御利用いただいております。

次に、物価高騰対策としてのキャンペーンの公平性についてでございます。

今回のキャンペーンにつきましては、より幅広い市民に還元するための手だてといたしましては、SNSやアプリだけでなく、フリーペーパーなど、紙媒体も活用した広報に努めるとともに、これまでのキャンペーンの分析を踏まえ、より多くの市民の皆様の御利用実績があった還元率20%でのキャンペーン実施を予定いたしております。

また、世代別、所得別の利用状況につきましては、所得に関する登録情報がないことから、把握は困難でございます。

次に、高齢者への支援についてでございます。

あかがねポイント事務局では、ユーザー向けのコールセンターを設置しているほか、窓口でのスマホ操作の

支援などを行っております。また、スマートフォンの操作が困難な方やデジタル機器に不慣れな高齢者への対応といたしましては、ソフトバンク株式会社との連携により、初心者向けにスマホ教室を開催しており、毎月9割を超える予約をいただくなど、市内の高齢者の皆様に御利用いただいております。

次に、低所得者層への公平性についてでございます。

あかがねポイントにつきましては、消費額の多寡によらず恩恵を享受いただけるとともに、お米やガソリンに限らず多様な利用者のニーズに応じた使い方ができますことから、有効で公平性が確保された施策であるものと認識しており、今回におきましては、おこめ券やガソリン券との併用につきましては実施せず、あかがねポイントによる実施といたしております。

**○議長（田窪秀道）** 再質問はありますか。片平恵美議員。

**○7番（片平恵美）（登壇）** 事務経費について教えてください。これまでもプレミアム付商品券を発行したことがあると思いますけども、そのときの印刷製本費などの事務処理経費と比較して今回はどうでしょうか。

**○議長（田窪秀道）** 答弁を求めます。加地企画部長。

**○企画部長（加地和弘）（登壇）** 片平議員さんの再質問にお答えいたします。

プレミアム付商品券の実績からの事務経費の比較についてでございます。

令和6年度に実施いたしましたプレミアム付地域商品券事業の決算ベースでは、事業費約1億800万円に占める事務費が約26%の2,840万円となっております。一方、今回のあかがねポイント事業の予算案ベースになりますが、事業費9,500万円に占める事務費の割合は約11%の1,000万円となっており、事業費に占める割合は、商品券事業に比べ少なくなっております。

**○議長（田窪秀道）** 再質問はありますか。片平恵美議員。

**○7番（片平恵美）（登壇）** 先ほど、低所得者でも公平だというふうな御答弁がありましたけれども、たくさん買う人が、やっぱり還元ポイントがたくさんあるわけですよ。買えなかったらポイントは返ってこないんですよ。公平性を考えるときに、機会は平等に与えられているというだけではなく、結果的にどうだったのかデータに基づいて検証することが必要だと思います。

今回、高齢者の利用状況を伺いましたけれども、本当は年齢層だけではなく、障害の有無とか所得層別の登録者数の割合でありますとか、加盟店舗の所在地に偏りがいいのかとか、アンケートをするとか……。

（ブザー鳴る）